

### シーン3

触手服の畏にかかる二人

ユリアーナ姫 アン、まさかそういった知識が純潔のところまで止まっていたとは……大丈夫です。触手さんとは種族が違うから回数には数えなくてもいい、とおもいますよ？」

アンナ わわわ、私のことはいいんですっ！ うう、媚薬で乱れたとはいえあんな、あんな……と、殿方との子作りがあんなに激しいものとは、くうっ、私は姫様の騎士、騎士。姫様を守るためならあれぐらい」

ユリアーナ姫 ちよつと、初めてには激しいプレイでしたかしら。あ、あの部屋で最後、たぶん鏡も」アンナ はっ、姫様危のうございます！ 私が開けますから……！」

ユリアーナ姫 おふ、頼りにしてますよ私の騎士」

ユリアーナ姫 ま、あ……ここは。立派なドレスルームですね」

アンナ また服に化けた触手などがいては厄介です。姫様は柵に近付かぬよう」

ユリアーナ姫 服にですか……先ほどよりもぴつたりと張り付いてこられるとちよつと困りますね」

アンナ っう、わ、忘れるんだ私い……こほん、ではなくっ、あそこに掛かっている鏡ではないでしょうか？」

ユリアーナ姫 ああ——確かに解呪の鏡です！ この鏡に隷属の首輪を映せば……外れました！」

アンナ おめでとうございます姫様！」

アンナ 喜びを分かち合いたいところですが……、ひゃんっ!!」

ユリアーナ姫 おあつ!! じゅるつて聞こえ……あ」

アンナ あつて、んんっ!! お尻に!! っく、気配なんてなかったのに!!」

ユリアーナ姫 ㇿっ♡ 解呪の鏡に気を取られてましたが、右の壁に小さな鏡が……ひうつ、映ったものに呪いをかける、ん♡ 鏡、ですね」

アンナ の、呪いの鏡!! んあつ、ど、どんな呪いなのです？ あ、姫様、解呪の鏡を！」

ユリアーナ姫 それが、解呪の鏡は一回しか使用できないみたいで……呪いは、んっ♡……ああんっ♡ わ、映った衣装を、しょ、ひゃあ、触手に変えてしまう呪いみたい、ああん♡」

ユリアーナ姫 ぐ、くすぐっひゃ……んっひ、いひひひい♡」

アンナ 姫様、姫様！」

ユリアーナ姫 す、スカートの中!! んひやつ、これはっ、ちょっとたつてられません、ね♡」

アンナ この、変態触手っ、汚らわしい触手を姫様からはな……っくう！」

ユリアーナ姫 あぐっ、あひいっ!! あ、あ、待つてアン、引き剥がそうとすると、余計に……ひうつ♡ 敏感なところで暴れてっ、おへそもらあめえっ♡、にゆるにゆるっ、ショーツまで触手さんにつ、あ、あ♡」

アンナ ひゃ、あ♡ こんな、ナ、ナイフも触手に!! こら、手に絡みつくくなっ!! あ、足の裏!! んひい!!」

ユリアーナ姫 この呪いは、時間が経てば切れるようです。で、ですからっ

アンナ こ、こんかいも私が姫様の身代わりに……ひゃひゃひゃあつ♡

ユリアーナ姫 ああん♡ 今度は私たち二人一緒にトラップにかかったからだめみたい、です…  
…うふふっ、んっふふふ♡

アンナ そ、それだけならませえんっ。王家の女性はっ、あはっ、処女を捧げた相手に嫁ぐという掟があ……私の姫様を触手に奪われるな、んひい♡

ユリアーナ姫 ええっと、ん♡、でしたら『覆ろ』では……どうでしょうか

アンナ わあ!!

ユリアーナ姫 きゃあ!!

アンナ な、な、な、なんだこれは!! こんな、最初に私に入ってきた触手より二回りも……!!

ユリアーナ姫 まっすぐなのに……このふがあつて、先端まで雄々しい、ですね、くくり♡

アンナ ひ、姫様っ？ 服に成り代わった触手が、あの……不浄の穴を撫でてくるのですが……これは、一体……おお、おふうっ♡

ユリアーナ姫 ああ、そうでした。アンは『覆ろ』の意味を……けれど、ううん……まあ大体想像できると、ん、思いますが、ふひゃ♡

アンナ つ……お尻の穴、ひゃうんっ！ う、うう……姫様の純潔が守られるのであれば、私はあ、ひゃあうんっ！ あれくらい、あれくらい……おうっ、お♡ くっ、この触手？ 念入りに舐め回してばかり……あああつ……尻の穴に潜りたがる、変態のくせにっ……ひうんっ♡ ああ、これ媚薬入りの!!……入り口解さないれ……あちゅい、変になっひゃううっ♡

ユリアーナ姫 あ、あ、何本もの触手の先っぽでお尻の縁を突かれて……舐められて……んはっ……  
……じわじわとっ、確かお尻で致すときは念入りにほぐしてから、と先生には教えられましたがつ……  
……んんっ♡」

アンナ あふんッ、ああッ！ おお、おじりの穴に吸い付いて、キュボンッと離れて……んグッ、うう……  
……また、姫様に情けない姿をつ、つく、姫様も羞恥で真っ赤になっておられてるのになにも、んああ  
♡ できないなんて、おひっ♡！」

ユリアーナ姫 っ、アンナにだけ、こんな気持ち、いえ、大変な目に合わせるのも心苦しかったので  
す、んっ♡ せめて手を繋いでくださいっ……んああッ！ あの大きな触手が、粘液でぐちゅぐちゅ  
にほぐされた入口をつんつんしてえ♡……あ、あ、入っちゃ……んふうっ♡」

ユリアーナ姫 ほんの少し入っては、内側で円を描いて、にゆるうつと抜け、て……はあひっ♡ 想像  
してたよりもっ♡……ま、また入って……お、おお♡」

アンナ 姫様、お氣を確かに！ アンが手を繋いでおります！ おおっうっ、私の中にも!! 姫、  
しゃまあっ」

ユリアーナ姫 ひやうんっ♡……んうっ……繋がりがらお尻を捻げられていると……んっふ……  
ゾクゾクいたします♡ 殿方に抱かれるってこんな感じ、あ、あ、すぐに来ちゃいそうです♡」

アンナ ひ、姫様あっ。そんなお顔を見せられては、このアンまで……あ、ぐッ……しよ、触手なんか  
にいつ♡……姫様と同じものがお尻に入って……あ、あ、び、媚薬のせいです、から♡……姫ひやま、  
だめっ、み、見ないでください♡♡♡!!」

ユリアーナ姫 ㇿ、くううっ♡ お、おっ♡、おひり来ちゃいま、すっ♡ ああんっ、ああっ……卑猥  
な声、ひやあ♡♡ もれちゃう♡」

アンナ　わおおッ!!　おおッ!　中通つて、奥に……ぐぷッ!!　の、昇つてきゅりゅう♡　き、騎士はこんなこと……んへえッ!!　一度にぐぷぷつて抜かないれッ、止まつへッ!　気持ちいいのとまりやない!」

ユリアーナ姫　わあッ♡　あつふ、ああ♡　抜くときの、方がつ、ああんッ♡　気持ち良いですね、アンツ?　元氣な触手さんに、お腹の中を持つて行かれるかと、おおつ、思いまひた……あ、ああッ」

アンナ　ああ、姫様、お氣を確かにつ、ひやつ!!　鎧の内側全部触手に!!　おつ、おあん♡　中も外もぐちゅぐちゅにつ、私は、姫様の騎士だ、から……こんなこと、んひい♡♡♡!!」

ユリアーナ姫　あふつ、ん♡　触手さんの媚薬粘液が、全身に♡　あ、ああ♡　こんな阻喪してしまいそうになるぐらい気持ちいいの初めて、です♡　ん♡　お尻の穴もしゅごい……あ♡　ああ♡　あのときのアンはこんな快樂に、つひゃん♡、耐えてたのですね」

アンナ　や、や♡　この触手っ!　おっぱいに吸い付いて!!　……あううッ♡　裏側はびつしりと触手だなんて……もしや、姫様にも同じ!!　はひつ、へああ……身体がとろけひやうれしょおつ♡　アッ!　ううつ、うううッ!　姫様、姫様、お守りできずに申し訳ありません……あぐつ、んうッ♡　んはあッ♡」

ユリアーナ姫　あ、あ♡　ええ、ドレスの裏側、ん♡　乳首のところに吸盤が……ん♡　ああッ♡!　こんなに激しく♡　お胸をもまれて……ううう……先生に教わったことよりも何倍も……私壊れてしまいそうです……は、ああ♡　つ、ね、ねえ、私の騎士……私……情けないことですが、そろそろ……我慢の限界、んああ♡　でして、これからとてもはしたないことになると思いますが、ひう♡　……このまま手を繋いで嫌いにならないでくださいね」

アンナ　ぞ、そんな!!　ど、どんなことになっても姫様を嫌いに、んお。　おつ♡　なるなんて!　私は姫様の騎士ですからっ、んんっ♡　ずっとおそばに、んひっ♡♡」

ユリアーナ姫 ああ、アンももう限界なんですネ……はあ、はあ♡ 触手さんわざと見えるところにクリトリス用の吸盤を♡ あ、あ♡」

アンナ カリトリス……うう、ぴたつて……んんあつ♡♡♡ 触手ばんちゅ完成しちゃった……姫様の目の前で、んあ♡ あんな失態二度としないと誓つ、皮らあめつ、剥かないれえつ！ えへつ、んへえ♡ らめ、らあめえッ♡」

ユリアーナ姫 ぐんんッ……んはああああ——ッ♡ 私も、おじりを灼かれながら、クリトリしゅ吸われてしまうの、全身触手さんにまさぐられてっ♡ おおおつ、おおッ！ ……あああつ、あひいひい♡ ちゅつ、ちゅううつ、つて♡ 立派な吸盤でキスされて、クリトリスが調教されて♡ んっ、んうっ♡ アンも、白いお尻はねあけて……んあつ♡ クリトリスいじめられるの癖になっちゃう♡」アンナ ふううーっ、ふうううううーっ……お、おひり気持ちいいの止まらない!! イってるのに……あ、ああ♡ もう、もうっ……腰が勝手にへこへこ動いて……んへつ、えああつ♡ お尻、こんなの耐え、たえて……」

アンナ おおおおっ!! おおつ、おぐうッ！ おつふ、おおっ♡ 深く、なった♡ ああつ、んはあ♡ そんなあ、まだ気持ち、ひいひい♡♡♡ や、怖い!! だめえ♡♡♡!!」

ユリアーナ姫 お、おっ♡ んぷっ、お尻の奥に触手さんで突かれて、んあつ♡ 反対の口から出しようなくらい中♡ かき回されるの気持ちいい♡♡!! ああ、んは♡」

アンナ おひいっ!! ダメっ!! これ以上はっ♡ あ、あ♡ 出ちゃう!!」

ユリアーナ姫 あ、あ、私も粗相をっ♡ しゅ、しゅわれちやつてる♡ アンと私のお小水っ、ごきゅごきゅつて!!」

ユリアーナ姫 ああ、ああ、お尻に入ってる触手さんの触手おちんちん♡ さらに激しく♡ おひっ♡ おしっこ漏らしながらはしたない声、んひいっ、出してるのにこんなケツイキしちやいます♡♡♡!!」

アンナ ケツ、イキ……んあ♡ しょんな、お顔で、んんん♡ ひめしやま♡ ひめしやま♡!!」  
ユリアーナ姫 アンも♡ 大丈夫、ん♡ アンも私を守るためにいっぱい頑張ってくれたのです♡  
ここには、ん♡ アンと私と触手さんしかないんですから♡ 我慢せじゅに♡♡ お尻の入口♡  
♡♡ しょ、触手さんがお尻の入口から、奥まれ♡ 私もお尻跳ねあがっちゃう!!」

アンナ ああ、なんと淫らなお声を……んん♡、こんな触手鎧に♡ 姫様が弄ばれているのにつ  
!! 私も♡ 全部垂れ流しながらイちゃう♡♡♡!!」

ユリアーナ姫 あひっ♡ んあん♡ アンのイキ声、とっても素敵ですよ♡ ああ、触手さん♡!!  
触手さんの触手ドレスしゅごい♡♡♡!!」

アンナ むああ♡♡♡!! 姫しやま♡ ああ♡ 私、触手おちんちに攻められていつている姫  
様の声で興奮して♡ しゅみましえん♡♡♡ でも、私と同じようにお尻攻められて、おっぱいも、  
クリトリスも恥ずかしいところ全部、触手に弄ばれてる姫様を見ると♡♡♡」

ユリアーナ姫 ああああ♡♡ いんですよ♡ 私もお尻いいしゅ♡ 奥まであったかくて、あ  
ひっ♡ 中も吸盤でいーっぱい吸って頂いへえ……♡ しゅき♡、おひりしゅき♡ どうか激しくイか  
せてくださいませ♡ ああ、お尻♡ おひりイく♡、お尻♡、いい♡、おし、りいい♡……  
……!!」

ユリアーナ姫 アンも♡、いっしょにケツイキアクメ♡ はしたなく下品で気持ち悪い醜態を見せて  
♡ んっふう♡ おお、おお♡! 触手さん……クリトリしゅ……ああアア♡! ちゅちゅしゅ  
ごい♡♡♡ ほひっ、んひい♡♡」

アンナ あ、ああ……しょんな、姫様……んおお♡! ひう♡ 姫様のお尻に、私と同じ♡ ぶっ  
とい触手が出たり入ったりしてるの见えてます♡ ああ、姫様のお顔♡ アクメされてるお顔見て  
ると私も♡♡♡、おひっ♡ お、お♡♡ 触手おちんちんでイく♡♡♡!!」

アンナ おおおッ♡ おしりめくれりゆうッ♡ ケツイキひやへないれっ♡ おひりイクっ、イイクウ  
ウウウッ♡」

ユリアーナ姫 わお♡ アンのアクメ顔もとても素敵で♡ んひっ♡ 触手さんも♡ お♡ お  
♡ んおお♡ お尻出し入れするのしゅごい♡♡♡

アンナ お尻♡！ ああ、私、お尻中毒になっちゃう！ こんな、いけないのに♡ 姫様の騎士なの  
に♡!! お尻でもおマンコでもイっちゃう変態になっちゃってる♡♡♡!!」

ユリアーナ姫 ケツイキ♡ 私も♡ お姫様なのに♡ ケツイキ♡!! 覚えちゃって♡ こんな  
の忘れるの無理でしゅ♡♡♡」

アンナ ひめしやまのあられない声♡ んああ♡ あ、あ、今度はクリトリスが……しゅしゅ、  
吸われりゅっ♡ いっぱい弾かれまひゅッ♡」

アンナ わっはあああ——ッ！ クリトリスいつ、いい……わ、わたしも声とまりやない♡!! お  
尻とクリトリスっ、おしり、お尻とおおっ、おお、おお♡」

ユリアーナ姫 あ♡ お尻の触手チンポがビクビクっておっきく♡ 触手さんも♡ 限界なのですね  
♡」

アンナ え、んあ♡ まさか、ああ、まさかあ♡ いや、だめ♡ イま出されたら♡」

ユリアーナ姫 でも触手さんこんなに苦しそうに、んああああ♡♡♡ しゅごい引き抜かれて…  
…」

アンナ わおおお♡ ずんっ、ずんっ一番奥までッ」

ユリアーナ姫 ひうううう!! あちゅいのが中に♡♡♡!! おなか一杯押されますのに!! 気  
持ちはいい♡♡♡」



アンナ おひいいい♡♡♡!! これだめ!! 精液だめ♡ んああ!! ちがつ、乳首も♡ クリトリス♡ も一緒に弄っちゃ♡ 連続でイっちゃ♡♡♡!!」

ユリアーナ姫 あ、あ、ああ♡♡♡ イってるのにつ♡ 触手さんの触手おちんちんに中出しされて!! もつと高くイってしまいます!! こんな、こんなの自慰より♡ なんばいもしゅごいの!!」  
アンナ うう、姫ひやま、ひめしやま……お、おお♡ 精子ぱんぱんなのに触手おちんちんじゅばじゅばって……んへえええ♡「